



<http://townweb.litcity.ne.jp/tanakanoda/>

第73号 (季刊)
平成17年1月
田中野田町内会



年 頭 所 感



田中野田町内会会長 和氣たけし

新年明けましておめでとうございます。

平成17年の年頭に当たり一言御挨拶申し上げます。町内の皆様方には、旧年中は多方面にわたる町内会運営に御理解・御協力を賜り誠にありがとうございました。本年も昨年以上の御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



昨年は大きな台風が日本列島を十回にわたり直撃し、各地に大きなつめ跡を残しました。また、中越地方においては大きな地震に見舞われ、今なお以前の生活に戻れず、苦しみに耐えている多くの人たちがいます。かつてこのように頻繁に災害に見舞われた年はなかったのではないのでしょうか。地球温暖化の結果が招いた現象と指摘する専門家もおられます。自然との調和を無視し、あたかも自然を征服したような思い上がった暮らし方に原因があり、暮らし方の見直しが根底から求められているのかも知れません。

さて、「災害は忘れたころやってくる」という言葉があるように、突然としてやってきますの

で、日ごろからの備えが重要になります。先の台風24号は、わが地域にも大きな危機をもたらし、笹ヶ瀬川が決壊する寸前でした。人ごとではありません。

きちんとした改修が速やかに実現するよう働きかける一方で、完結するまでの間、大雨が降るたびごとに危機感を持って備えをしなくてはならないと感じたのであります。土のう積みの訓練・避難訓練等いざというときを想定し、だれもが迅速に、適切に実施できるよう訓練しておくことが喫緊の課題です。

そして、その際、最も重要なことは、こうした非常時において本当に役に立つのは、住民同士の助け合いの精神、日ごろの隣同士の声掛け関係がきちんと備わっているかどうかということです。実際、プライバシーに関する問題があったりして、行政では細かな地域の情報をほとんどつかんではないのです。地域としての的確な指示がなければ、災害において有効な活動が出来にくい現状があります。「あの家に住んでいるのは、老夫婦二人暮らしで、おばあさんは足が悪い、早く行ってほしい。」といった適切な情報が何よりも大切なのです。

そういった意味からも、平素の近所づきあい、信頼の人間関係を作っていくことが極めて重要です。改めて町内会の活性化に力をつくして参らなければならないと感じているところであります。